

# 情報リテラシー教育の課題 ネットいじめ・闇サイトに関するアンケート調査より The Problem of Information Literacy Education The Questionnaire about Net Bullying and Various Illegal Sites

加納 寛子  
KANOH Hiroko  
山形大学  
Yamagata University

[要約] ネットいじめや、闇サイトによる被害が急増している。被害に遭うのは、子どもだけではなく、むしろ大学生の方が小学生よりも被害は多いにもかかわらず、すでにフィルタリングの義務もなく、保護者と同居していない場合も少なくない。そこで、大学生に対するネットいじめや闇サイトに関するアンケート調査を行った。その結果、77%がネットいじめを見かけたことがあり、80%が闇サイトを見かけたことがあり、36%が実際に闇サイトの仕事をしたことがあり、55%が闇サイトの仕事をしてみたいと回答していた。さらに、80%の大学生が、ネット上で知らない人に出会う経験をしていることが分かった。これらの結果より、危険性を十分理解し行動に移せる情報リテラシー教育が急務の課題であることが示唆された。

[キーワード] ネットいじめ、闇サイト、情報リテラシー、大学生

## 1. はじめに

ネットいじめや、闇サイトによる被害が急増している。警察庁のデータによると、全国の警察に寄せられた被害相談は 2007 年 1 年間で約 8000 件に上り、前年に比べ 4 割増えているとのことだ。

### 1-1. ネットいじめ

通常はいじめの場合、暴力をふるわれれば、ふるった相手が加害者であることは明白であるし、上履きがゴミ箱に捨てられていた、というようないじめの場合も、おおよそクラスの中にいる人物が特定される。

だが、ネットいじめは、直接攻撃することはせず、匿名で隠れて行われることが多い。「\*\*とはなしをするのはよそうね」「あいつは\*\*なんだって」などというメールを転送し合い、友人・仲間・クラスなどの関係を壊すのである。いじめの原因となるメールは、

自分の携帯から発信するのではなく、塾での友達など、学校外での知り合いの携帯を借りて、ネットいじめを行うケースも多く、発信者の特定を困難にしている。このような関係を壊すいじめは「関係性攻撃」と呼ばれている。関係性攻撃は、「自分の目的を達成するために他人の人間関係を操作する行動(河野, 2008)(Crick, N.R. & Grotpeter, J.K., 1995)」といわれており、今の子どもたちにとっては、ネットも、他人を自分の意に沿うように導く武器として使いこなしているのだろう。関係性攻撃で仲間はずれにされた被害者が、別のターゲットの悪口のメールをクラス中に回すなどして、今の学校ではいじめていた子が、いつのまにかいじめられる側に逆転することは珍しくないとのことだ(中学校の教員談)。だれが加害者であるか、いじめの現場に誰がいたのかが見えにくいために、いっ

そう不安に陥りやすい。

さらに、直接言えないようなことも、匿名のメールならば言えてしまう。つまり、加害者の加害行為を行うハードル関係は、

- ・加害行為を行うハードル

直接（高い） > 間接（低い）となる。

一方、被害者の傷つく度合いは、直接言われれば、弁解する余地もあるだろうし、言い返すこともできるが、匿名でネットに公開されれば、世界中の人に知られることであり、誤解であっても弁解する余地はなく、木津つく度合いは大きい。つまり、被害者の傷つく度合いの関係は、

- ・被害者の傷つく度合い

直接（低い） < 間接（高い）となる。

匿名でのネットいじめは、低いハードルで実行に移しやすいが、被害者が被る心の傷は深く、その落差の狭間で、ネットいじめ問題の解決を難しくしている。

### 1-2. 闇サイト

偽札販売、偽札の作り方、コカイン販売、日給 XX 万円即日払いなどのサイトは、公開しているだけでは罪にはならない。おそらく捜査をすれば、違法行為の摘発にいたり、サイトも閉鎖されるが、実現されていない。摘発されてもすぐにアドレスを変えて、水面下に潜ってしまうため、摘発を難しくしているようだ。強盗殺人の手伝いをバイトとして募集して、実行に至る事件の起きたことで有名な「闇の職業安定所」に類するサイトでは、「XX 円で夫を殺害してほしい」「XX を半殺しにしたらい XX 円」といった書き込みが、常に興亡している。たいていは、数日で、早ければ数時間程度で、書き込みは消されるか、他へ移動する。このような書き込みを、安直な方法で収入を得ようとしている人を誘惑に駆り立てる。

頭から血を流している写真や、樹海で死体が鳥につばまれている写真や、交通事故の残酷な映像なども多数放置されている。一般

の通報者として、これらの闇サイトを「インターネット・ホットラインセンター」に、通報させたが、フィルタリングサービス会社などへ連絡しておくという返事にとどまり、残念ながら削除には至らなかった。

## 2. 目的と方法

ネットいじめや闇サイトに関わる問題の被害に遭うのは、子どもだけではない。むしろ闇サイトの日雇い仕事に関心を持ち危険なことに遭遇したり、フィッシング詐欺などに遭う危険は、大学に入学するまで、受験勉強等に追われ、あまりオンラインの世界を見てこなかった大学生の方が、小学生よりも被害は多い。多くの危険があるにもかかわらず、すでに 18 歳以上であるため、フィルタリングの対象からは外れている。自主的に希望しない限りどんなサイトも閲覧できる契約することになる。

そこで、大学生に対し、ネットいじめや闇サイトに関わる問題に対するアンケート調査を行い、意識調査を行った。

調査方法は、パソコンルームで、一斉入力の方法で行い、有効回答数は大学 1 年生 205 名であった。

## 3. 結果と考察

### 3-1 ネットいじめ

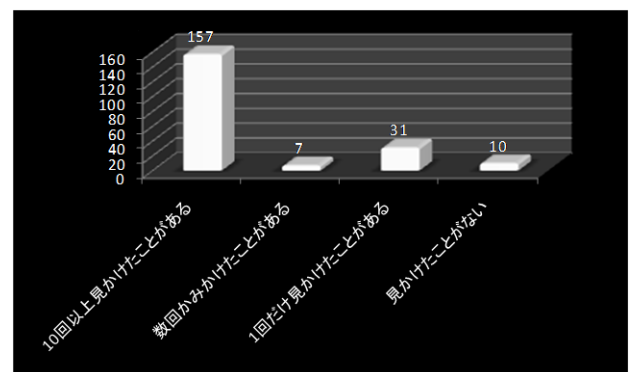


図 1 ネットいじめを見かけたことがあるか（人数）

「ネットいじめを見かけたことがありますか？」という質問項目に対する結果は図 1 に

示した。結果を見ると、77%にあたる 157 名がネットいじめを見かけたことがあるという結果であった。

また、見かけたネットいじめのサイトにはどのようなことが書かれていたのか尋ねた結果は表 1 に示した。「死ね」など、直接的で残酷な言葉が並んでいる。面と向かっては言えないようなことも、ネット上ではたやすく書き込めしてしまうようだ。

表 1 そこにはどんなことが書かれていたか
「早く死んでくれないかな～○○」とか「あいつゴミ以下!!いや、宇宙に存在して欲しくない!」とか「アレを昨日見かけたんだけど、友達居ないみたいだったよ～?」とかかいてあった。
.○○さんとやれる.
.あいつナンテ死ねバいいのに
.ある人(友達)が出会い系サイトなどで遊んでいるという掲示板などのかきこみ.
.きもいとか・・・死ねとか...
.しねうざいきもい雑魚
.悪口
.個人名を出して、死ね、キモいなど。また、電話番号が書いてあったりする.
.公開していない個人情報や、誹謗中傷など。また、嘘の噂を書き込まれている.
.死ねなどの書き込みによる中傷
.死ね死ね死ね死ね死ね死ね死ね死ね死ね死ね死ね死ね死ね
.実名を出して誹謗中傷されていた
.人の見た目を中傷する様なことが書いてあった.
.非難、中傷
.僕の学校では、いじめが行われています。なんか、だれだれ、気もいとか、死ね死ね死ねとか黒く書かれていました。ひどいと思った.
.友人の悪口
「●●は性格が最悪」などの単純なものから、性に関する事で誰かの評価を著しく貶めるような表現.
.掲示板書き込みによる中傷.
チャットみたいなどころ「死ね。ブス。」など悪口.
悪口、掲示板での荒らし行為を勧めることなど.
確か掲示板かチャットの話です。数人が一人を追い出すような事を言った。(出て行け、邪魔)

魔)などなど
顔写真が載っていて「キモイ」「学校くんな」などの書き込みがされていた.
掲示板ではなくチャット上ですが、集中的に無視されていました。(性格が悪かったようで・・・)自分はすぐ退室して見なかったことにしてしまいました.
掲示板にあいつうざいよねみたいな書き込みがしてあるのを見たことがある.
高校の裏サイトで悪口をかかれていた.
死ねなど
弟の悪口
暴言

### 3-2 闇サイト

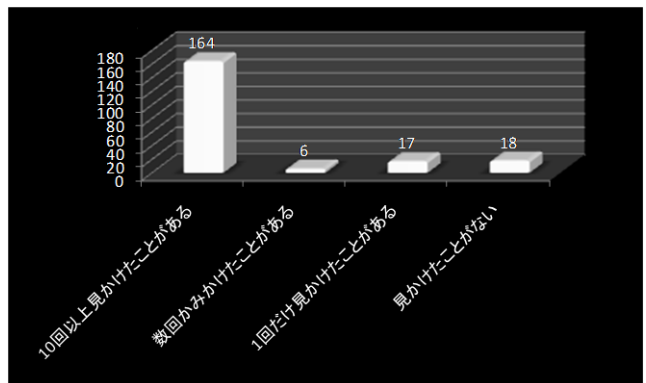


図 2 闇サイトを見かけたことがあるか(人数)

「闇の職業安定所など闇サイトは見かけたことがありますか?」という質問項目に対する結果は図 2 に示した。結果を見ると、80%にあたる 164 名が闇サイトを見かけたことがあるという結果であった。闇サイトのアルバイトの中には、「性別学歴不問、日給 3 万円即日払い、一切ノルマなし」など、容易にお金を稼ぐことができるアルバイトが並んでいる。

そこで、「闇の職業安定所などに書かれている仕事をしたいですか?」という質問を行い、その結果を図 3 に示した。結果をみると、36%にあたる 74 名が実際に仕事をしてきたことがあり、55%にあたる 113 名が仕事をしてみたいと回答していた。日給 3 万円の仕事などは、危険が伴う業務であるが保証がない場合が多く、安易に金額だけで日払いのアルバイトを選ぶことは非常に危険であるが、若者に

として、闇の職業安定所などに紹介されている仕事は、非常に魅力的であることがわかる。

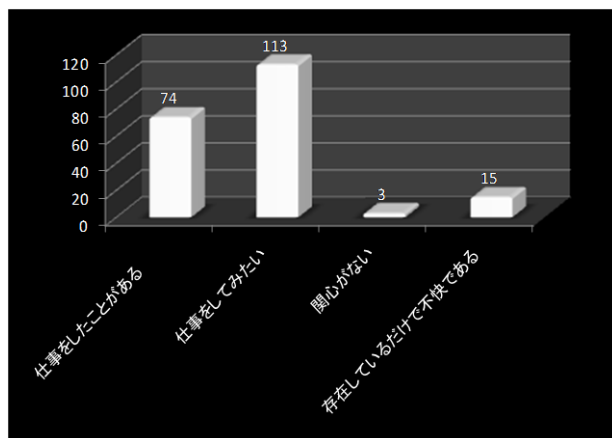


図3 闇の職業安定所の仕事（人数）

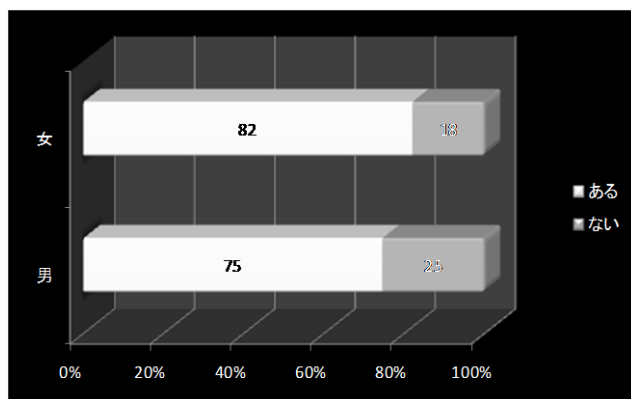


図4 ネット上での出会い (%)

### 3-3 ネット上での出会い

「出会い系サイト」という言葉は、もはや死語に近い。出会い系サイトの危険はかなり浸透しており、出会い系サイトにアクセスする若者は減少してきている。だが、出会い系サイト以外でも容易に見知らぬ人と出会うことができる。子ども向けゲームサイト「モバゲー」などのゲームサイトなどは、出会い系に分類されないが、誰とでも容易にコミュニケーションのとれるコミュニティーが存在し、悪意のある大人がアクセスする危険が少なくない。そこで、「ネット上で知り合った人と実際に合ったことがありますか？」という質問に対する男女別の回答結果を図4に示した。ネット上での出会い被害は、女性のほうが多いとメディアなどで報道されており、実際であったことがある割合は女性が82%であり、

男性は75%であり女性のほうが多かった。だが、男女差を $\chi^2$ 乗検定によって比較したが、有意な差はなく、ネットでは、性別に関係なく80%の大学生が、ネット上で知らない人に出会う経験をしていることが分かった。

### 4. まとめと今後の課題

大学生に対するネットいじめや闇サイトに関するアンケート調査より、80%がネット上で知らない人に出会う経験をしており、77%がネットいじめを、80%が闇サイトを見かけたことがあり、36%が実際に闇サイトの仕事をしたことがあり、55%が闇サイトの仕事をしてみたいと回答していた。これは、非常に危険な結果である。小中学生に関しては、ネットいじめや闇サイトに対する対応方法などの情報モラル教育が進んでいるが、大学生以上の大人に対する情報モラル教育は十分でない。今後は、大学生以上の大人に対しても危険性を十分理解し、行動に移せる情報リテラシー教育が急務の課題であることが示唆された。

（付記）本稿は文部科学省科研費補助金若手研究B（課題番号19700613，研究代表者：加納寛子）の補助を受けた。

### 参考文献

Crick, N.R. & Grotpeter, J.K. : Relational aggression, gender, and social psychological adjustment. *Child Development*, 66, 710-722, 1995.

河野義章:「いじめ」社会的攻撃・関係性，加納寛子編「現代のエスプリ 492号 ネットジェネレーション バーチャル空間で起こるリアルな問題」，至文堂,2008.

加納寛子：ネットジェネレーションのための情報リテラシー&情報モラルーネット犯罪・ネットいじめ・学校裏サイト，大学教育出版，2008.